令和2年度 家庭、技術・家庭科 研究のまとめ

下伊那教育会 家庭、技術・家庭科委員会

I 研究テーマ

「主体的に協働して課題を解決し、生活での実践につなげられる子どもの育成」 ~コロナ禍における指導の実践より~

Ⅱ 研究テーマによせて

I アンケート結果から見えてきた各校の様子と課題

新型コロナウイルス感染症対策のために臨時休業措置がとられ、例年のようには授業を進められない状況が続いた。それを受け、本委員会では各校で困っていることや工夫していること等をアンケート調査した。そこから見えてきたことから課題を次の3つにまとめた。

- ① 臨時休業等で十分な授業時数を確保することができず、どのように学習を進めれば良いのか。 【課題】 これまでの単元展開を見直し、単元の進め方を工夫する必要があるのではないか。
- ②調理実習や保育園が問等、3密を避けることが難しい学習はどのように進めていけばよいのか。 【課題】 配慮することや工夫点を整理し、別の学習方法等も探る必要があるのではないか。
- ③家庭での学習や実践をどのように進め、どのような形で評価すればよいのか。

【課題】保護者と連携し、学習をサポートする方法を考える必要があるのではないか。

2 本年度の委員会としての取組の方向

以上の3点を中心に委員会で検討し、コロナ禍を乗り切るためのヒントになること、また、 コロナ禍であってもなくても授業実践に生かすことができ、研究テーマに迫るような実践例を 紹介できないかと考え、本年度は次の3点について具体的な事例を提案したいと考えた。

- (1)コロナ禍で授業時間時数を十分に確保できない場合にも対応できる単元展開の例。
- ②3密を避けて安全に実施できる授業や実習を実現するための配慮や工夫について。
- ③家庭と連携しながら課題や実習を実践するための家庭学習のあり方と評価方法。

Ⅲ 研究の内容

1 コロナ禍による臨時休業等に対応した単元展開

臨時休業等で授業時数が不足し製作の時間が確保できないという声が多くあったため、中学 1年次の技術分野の単元において、「コロナ禍であっても学校の授業の中で優先的に扱いたい 内容」、「感染状況によっては後回しにして学習することもできる内容」、「家庭学習やオンライン授業でも学習を進めることができる内容」とに分けて単元展開の提案をしたい。学習する順番を変えたり、家庭で学習したりすることで、学びが継続するように考えた。

《コロナ禍における中学 | 年次の技術分野の単元展開の例》

①コロナ禍であっても学校の授業の中で優先的に扱いたい内容 ②感染状況によっては後回しにして学習することもできる内容 ③家庭学習やオンライン授業でも学習を進めることができる内容

学習内容	時数	回家庭子首やオンテイン技業でも子首を進めることができる内 学 習 活 動	1	2	3
情報の技術ガイダンス	1	PCの基本的な扱い方を理解している場合は本時を割愛 して良い。身の回りにある『情報の技術』としてPCの 使用方法を学ぶ。	0		
情報のデジタル化	1	教科書やワークシートを用いて、基本的な情報処理の 仕組みや、デジタル化の方法を学ぶ。			0
情報通信ネットワークの仕 組み	1	インターネットの仕組みやクラウドサービスについ て、学ぶ。	0		
情報モラル	1	安全に利用するための情報モラルを身に付ける。例と して、誹謗中傷するような書き込み、個人情報の流 出、著作権や肖像権について理解する。また、情報モ ラルに関しては、機器を扱う場面ごとに、確認する。			0
情報セキュリティ	1	安全に利用するための情報のセキュリティを理解す る。特に、自分の端末、アカウント、パスワードの管 理意識を身につける。		0	
Classroomの利用	1	Classroomのログイン、クラスへの参加の方法を知 り、ストリームや課題を確認できるようにする。	0		
GSuiteの利用	3	ドキュメント、スプレッドシート、スライド、 jambordの使い方を学ぶ。	0		

学習内容	時数	学 習 活 動	1	2	3
技術の見方、考え方	1	技術の授業は技術の見方・考え方を働かせ、ものづく りなどの実践的・体験的な活動を通して、生活や社会 における問題解決能力を身に付けていく学習である事 を知る。	0		
技術と生活の結びつき	1	製品には作り手の創意工夫の技術が多く詰まっている 事 (例:貼ってはがせる付箋、ステイオンタブなど) を紹介し、自分の身の回りの製品の中から作り手の創 意工夫が感じられるものを探す。			0
技術とエネルギー・環境	1	現在ある環境問題(プラスチックごみの増加、地球温暖化など)やエネルギーの課題(化石燃料の枯渇、発電所の安全性など)を把握し、持続可能な未来を創るために、どのように技術が活用されているかを調べる。			0
材料の性質	2	木材・金属・プラスチックの性質を調べ、材料の主な 特性と特性を生かした利用方法の例をまとめる。			0
製図①	1	コロナ禍の臨時休業により、授業時数の確保が難しい場合は、製図の中では第三角法の正面図のかき方を優先的に学習する(正面図が正確にかければシンプルな構造の作品の製作が可能になるため)。時間がない場合は、第三角法の側面図、平面図、キャビネット図、等角図については、製作後に学習することが可能。	0		
製図②	1	第三角法の平面図、側面図のかきかたを学ぶ。		0	
製図③	1	キャビネット図のかきかたを学ぶ。		0	
製図④		等角図のかきかたを学ぶ。		0	
設計①	1	作品のイメージを持ち、第三角法の正面図で構想図を かく。	0		
設計②	1	構想図を元に、材料取り図をかく。			0
けがき 組み立てのけがき		けがきの仕方を覚え、材料どり取り図を元に材料にけ がく。 終わった生徒から、木ねじの下穴のけがきを行う。	0		
切断	2	けがき線に沿って、のこぎりで材料を切断する。	0		
部品加工	3	切断面を削り、部品を加工する。	0		
組み立て	3	基本的には授業で釘や木ねじ等を用いて組み立てるが、授業時数が確保できない場合は、材料と工具を持ち帰り、家で組み立てる。また、持ち帰る場合は、学校で材料に下穴を開け、家で木ねじでとめる。			0
仕上げ	2	塗装面の仕上がりを良くするために、研磨紙を用いて 素地磨きを行う。全体的に磨いたら、塗料の上塗りと 下塗りを行う。		0	
材料に関する技術の 評価・活用	2	教科書やワークシートを用いて、材料と加工の技術が 社会や環境に果たしている役割と影響と、製作した作 品を、社会的、環境的及び経済的側面などから比較・ 検討し、まとめる。			0

2 ハイブリッド型(ハイフレックス型)授業

授業学級:飯田西中学校 2年1組 授業者:櫻田 誠二

(1) ハイブリッド型 (ハイフレックス型) 授業とは

ハイフレックス型の授業では、教員が対面で授業を行い、生徒が同じ内容の授業を、同期双方向型のオンライン授業でも受講できる。今回は、1クラス(32名)を16名ずつ2会場に分けて実施した。普段からハイブリッド型(ハイフレックス型)授業を取り入れることで、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によって、対面授業の実施が不可能になった場合にも、分散登校やフルオンライン授業への移行がスムーズに行えると考える。





(2)授業の内容

① 研究内容

ハイブリッド型 (ハイフレックス型) 授業を行った場合に、同期双方向型のオンライン授業で受講する生徒が、対面授業と同程度または、それ以上の学びを行うことができるか。

- ② 題材名 情報の技術「自動化されたものをフローチャートで表してみよう」
- ③ 主眼

自動販売機にはシーケンス制御という自動化が使われていることを知った生徒が、信号機の 自動化について Jamboard を用いた共同編集やまとめをする場面で、他の生徒の考え方に着目 しながら、自動化の流れを論理的に文字と図形で表す活動を通して、自動化には繰り返しの制御があることに気付き、フローチャートの書き方の基本を身に付けることができる。

④ 授業展開と生徒の姿

ア. 課題把握

今回の授業では、Classroomを利用した。Classroomを使うことで、課題のやり取りや、meetへの接続が容易である。オンラインで受講する生徒にも伝わるように、学習課題や学習問題、授業の流れを課題の概要に記入した。



学習問題「信号機の自動化の流れを知ろう」

信号機(歩行者用+車用)の映像を導入で見せた。

YouTube に動画をアップし、リンクを課題に載せ、生徒が何度も見返しができるようにした。2人1組で行ったので、1人が動画を再生し、もう1人がJamboardに打ち込むという役割分担が自然に行われていた。



学習課題「複数の信号機の動きに注目して Jamboard で自動化の流れをまとめよう」

イ 究明実践

2人1組で信号機の自動化の流れを言葉と図形を用いてJamboardにまとめた。Jamboardの付箋は何度も動かすことが可能なので考えを深めるのに役立つ。また、共同編集を行えるようにすることで、他のグループのアイディアからヒントを得ることができる。

shimizu

ウ 整理発表

完成した Jamboard を全体に提示しながらいくつかのグループが発表をした。生徒たちは自分の端末でも発表者の作ったものを確認していた。

エまとめ

Googleformsを用いて授業のまとめを行った。

- ⑤ 生徒の感想
- ア Jamboard を使って文字や図で表したことは、自動化の流れを理解するのに役立ったか? 自動化の流れを整理して理解できた…31名 自動化の流れが良く分からなかった…1名
- イ やりにくいことや困ったことがあるか。(リモート会場のみ)

映像が途切れてしまって、話が聞き取りづらいことがあった...4名 わからないことが聞きづらい...1名

特になし...11名

- ⑥ 成果と課題
- ・ 新しい取り組みなのでやってみないと分からない事も多かった。新しい 授業スタイルに挑戦をして、多くの課題を見つけられたこと自体が成果である。
- ・ 生徒の感想を見ると、「良く分からなかった」と答えた生徒はクラスで1名だけだった。オンラインでも対面と同等の学びを得ることができたと考える。
- ・ オンラインで授業をするときは、指示やねらいが明確である必要があると感じた。しかし、 対面授業でも教師は指示が伝わった気になっているだけで、本当は生徒に伝わっていない可 能性がある。改めて、普段の授業で大事にしたいことを見返すきっかけになった。
- ・ 「わからないことが聞きづらい」という生徒がいた。オンラインで授業をするときにつまずいている生徒をどのように見つけるかが今後の課題である。困ったときはどのようにするかという決め事をしたり、今回のような経験を多くさせたりすることで解決できるのではないかと考える。



3 コロナ禍における ICT 機器 (ロイロノート) を用いた授業

授業学級:喬木第一小学校 林 日菜子

- (1)題材名 「冬を明るく暖かく」
- (2) 本時のねらい

ロイロノートを使って考えた冬を快適に過ごすための工夫について、友達と意見交換することを とおして、自分の考えたアドバイスを見直し修正することができる。

(3) 授業の流れ

学習問題:部屋にいる子が暖かく快適に過ごすためには、どの部分をどの ように変えたらよいのだろう?

① ロイロノートで配布されたイラストを見る。

「この子が快適に暖かく過ごせるようにアドバイスをあげよう」

学習課題:変えることができそうな部分を囲んで、暖かく過ごすための工夫を 付箋に書き込もう。

②暖かく過ごすための工夫を、付箋を使って書き込む。

【予想される児童の意見】

- くつ下をはく
- 暖かい服を着る
- カーテンを閉める
- ・配布されたシートに直接書き込むことで、その児童がどの部分 に着目し、どのような修正を行ったのかが一目でわかる。
- ・友と意見交換をする前と、した後のイラストを見比べて振り返 りができるように、はじめに作ったイラストを【提出箱】に提出する。
- ③ 全体で共有し、友達の考えを取り入れて付箋をさらに貼る。 「友達は、どんな工夫を考えているかな?自分のものと比べて、 さらに良いアドバイスをあげよう。」
- ④ クラス全体の意見を共有し、自分にはない考えを探して採用し たいものは、ピンク色の付箋で貼る。

【予想される児童の意見】()が友だちの意見を取 り入れたもの

- 冬物のくつ下をはく
- ・カーテンを閉める(**カーテンの長さを調整する)**
- 重ね着をする
- ・扇風機を使い暖かい空気を循環させる
- ・意見交換をすることで、さらに暖かく快適に過ごすための 工夫を見つけることができる。

(4) 授業での学びを家庭生活で実践する

各家庭で行った写真を撮り、授業で報告しあい、再び家庭 生活での実践につなげる。

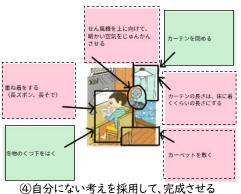


くつ下をはく

③提出箱の中を共有する

① イラストを配布する

カーテンを閉める



【予想される児童の実践】

普通のくつ下をはくのではなく、冬物の厚手のくつ下をはくことが大切だと知っ た。今までは、家に帰ると裸足でいたけれど、モコモコのくつ下をはいてみた。



家庭で実践する。

4 衛生管理を学習に取り入れた安心・安全な調理実習

感染リスクの高い実験・実習・交流等の学習活動が制限される中で、年間指導計画を見直したり、 衛生管理マニュアル等の情報を整理したりして、安全安心な授業づくりを目指した。中でも各校で 実施することを迷っていた調理実習については、委員が自校で実践して課題を明確にし、感染状況 に合わせた「調理実習マニュアル」を作成し、参考資料として各校へ提示することができた。

また、子どもたちがコロナ禍の中においても、主体的に協働して課題に取り組めるために、委員が「ロールプレイングによる体験的な学び」や「ICT機器の効果的な活用」「家庭で実践する課題のあり方」について指導実践を重ねてきた。

今年度は、これらについてまとめることで、子どもたちが安全に安心して学校や家庭で学び、生活での実践につなげられるようにしたいと考えた。

(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のための調理実習の実施マニュアル(参考例) 新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応

「豊丘中学校における調理実習の実施マニュアル」(2020.9.25現在)

※これはあくまでも現在の豊丘中学校のマニュアルです。家庭科以外の調理場面においても参考にします。

- 1 調理実習の実施の可否
 - (1) 飯田保健所管内で「警戒レベル3」の時は、実施しない。
 - (2) "「警戒レベル2」の時で、感染が拡大局面にある場合は実施しない。
 - (3) 『警戒レベル1』の時で、感染症予防対策をとって実施する。

*現在のところ豊丘中学校において実施する場合には、「一人調理」を原則とし、学習すべき 内容に適した献立を工夫していく予定である。

- 2 感染症予防対策
 - (1)健康観察
 - ①生徒も授業者も、実習前に健康観察を実施し、体調が悪い状態で実習に参加しない。
 - ②体温や体調などの健康観察結果は、授業者が記録として手元に残しておく。
 - ③調理台の位置と使用する児童生徒名を記録しておく。(感染判明時に必要な座席表の保存)

(2) 身支度と手洗い

①身支度は、必ず洗濯してある衛生的なものを 使用する。

マスクの着用、エプロンや三角巾はなるべく全身、頭髪を多く覆うことができるものを使用する。

②身支度の前後、実習前後、試食前と後には、 必ず石けんを用いての手洗いを十分に行う。 石けんで10秒→流水で15秒を2回繰 り返す。

洗った後は清潔なタオルかペーパータオルで水分を拭き取る。

<u>※引火性のあるアルコールは使用しない。</u> <u>また、調理室に置かない。</u>

(3)調理室内の環境

- ①常に換気を行い、密閉した空間にしない。
- ②生徒がいない場面で、授業前には職員により必要な消毒作業を実施しておく。



水道の蛇口、ガスコンロのつまみなど、触る頻度の高い部分は丁寧に消毒しておく。

③調理台1台につき、原則2名程度(通常の半分の人数)が同時に調理する環境とし、実習人数をできるだけ少なく制限する。

(4)調理実習の準備

- ①実習の材料や用具は、すべて学校で準備し、生徒に自宅から持参させない。
- ②生徒一人ずつ使用できる調理器具等を準備して、共有させない。
- ③調理器具や食器は、実習前にすべてを家庭用洗剤で洗い、使用後も同様に洗う。
- ④洗った後に衛生管理が徹底できた布ふきんがない場合には、水切り後に使い捨てのペーパー タオルを使用する。
- ⑤洗剤は使用方法を確認した上で、「スポンジに直接つけるタイプ」か、「洗い桶に水を入れて、 薄めて使用するタイプ」かなど、適切な使用方法を学習の一部として指導し、使いすぎを防 ぐ。
- ⑥調理室や野外も含めた調理実習の場面では、児童生徒に「消毒用アルコール」や「塩素系の 薬剤」を用いた消毒は、引火や誤飲の危険等があるためさせない。また、学習の場面にそれ らを置かない。生徒には、手洗い用石けんや家庭用洗剤(界面活性剤含有)を利用させる。

(5)調理実習中

- ①生徒を集めての示範は避け、DVD等の映像や実物投影機を活用するなどして密を避ける。
- ②授業者がマイク (拡声器) を使用するなどして、大声で指示することがないような工夫をする。
- ③生徒は、ペア学習をする場合においても、共同調理は避け、個人調理を原則とする。
- ④生徒は、使用する調理器具や食器等、また調理済みの食品などは自分のもの以外に触れない。

(6) 試食と片付け・学習のまとめ

- ①試食は身支度をしたまま実施し、前後には石けんによる手洗いを行う。
- ②生徒間の距離を空け、**対面に位置しない状態で**声を出さず、自分で調理したもののみ試食する。
 - (今後必要に応じて、また、可能であれば、試食の場面でパネルを立てたりシートを準備したりして飛沫を防ぐ。ただし調理中は可燃性のシートなどへの引火の危険に考慮して置き場に配慮する。)
- ③試食時の感染リスクを考慮して、食品を持ち帰らせない。(食中毒等のリスクがあるため)
- ④調理器具や食器は、**実習後に**すべて家庭用洗剤で洗う。
- ⑤洗った後に衛生管理が徹底できた布ふきんがない場合には、水切り後に使い捨てのペーパー タオルを使用する。
- ⑥学習のまとめの場面では、振り返りや感想などは、ICT活用や付箋に記入して交換するなど、なるべく生徒間の距離を置いて、密にならないように工夫する。

3 その他

・新型コロナウイルス感染状況は日々変化し、今後マニュアルも更新していく予定である。様々な角度で感染防止対策を検討し、全職員および保護者の理解や協力のもとで最終判断したい。実施については感染の不安を感じる生徒・保護者もいるため、事前に通知してから行う予定。

(2) 衛生管理を学習に取り入れた安心・安全な調理実習の実践事例

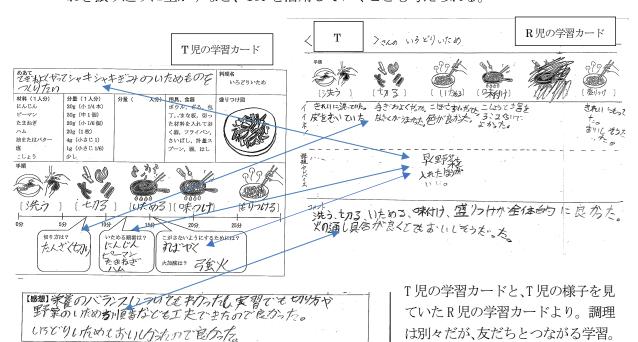
授業学級:阿智第二小学校 6年 授業者:佐藤 由佳

- ① 題材名 「朝食から健康な1日の生活を」
- ② 調理実習においての工夫と配慮
 - ・ペアをつくり、個人調理を行う。

- ・ペアの一人は、ペアの友だちの計画や願いにそった実習になっているか、良いところ、ア ドバイスなど、調理の工程にそって記入していく。
- 材料は一人分ずつになるように分けておく。
- ・自分の分は全て自分で切り、調理する。
- ・菜箸の共用や食べる際の衛生面を考慮し、全て割りばしを使う。
- ・ペアの友だちは離れたところで見守る。アドバイスがあれば近くでそっと教えてあげる。
- ・一人終わったら次のペアに交代する。
- ③ さらに配慮するとよかった点
 - ・食器を洗ったら塩素等につけて消毒し、フキンはペーパータオルを使用する。
 - ・食器を洗ったら塩素等につけ、消毒する。
 - ・試食の際はできるだけ向かい合わないよう、教室等を利用する。
 - ・できあがった物はタブレット等を使い記録しておく。お互いに試食はできないが、振り返りに使用できそう。

④ 成果と課題

- ・自分のめあてを持ち、手順も明確にしておき、学習カードを見ながら友だちに伝え、理解してもらってから活動にうつった。今までのグループ調理のように直接一緒に調理しながら友だちと考え合うことはできないが、ペアの友だちに客観的に見てもらうことで見てもらう側にも見る側にもメリットがあるように思う。見てもらう側は客観的なアドバイスをもらえ、見る側は自分がやっているような気持ちで見つめ、自分自身の実習にも役立てたり、振り返りにつながったりする。
- ・本当は友だちが調理したものも試食し自分のものと比較しながら、よりよい調理法を考えていくことが期待できるが、それができなかった。タブレット等を利用し、写真をとっておき振り返りに生かすなど、ICTを活用していくことも考えられる。



5 コロナ禍に対応した幼児とのかかわり方について考える授業

授業学級:緑ヶ丘中学校 3年6組 授業者:牧内 多希子

- (1) 題材名 「幼児とのかかわり方を考えよう」
- (2) 生徒の姿

自分の課題を意識しながら、友とのかかわりによって幼児とのよりよいかかわり方を工夫することができたI生

【I生の課題】→ 優しく接しやすいようにしたい。

【課題達成のために工夫すること】→ 言葉遣いに気をつける。笑顔を忘れない。

コロナ禍で実際に幼児と触れ合う活動を設定することができなかったため、生徒同士でのロールプレイングを通して、幼児とのよりよいかかわり方について、できるだけ具体的に考えられるよう学習活動を工夫した。手作りのおもちゃで幼児と遊ぶ場面を設定し、各自の課題を解決するために工夫することができたか、自己評価と相互評価を取り入れた。

I 生が中学生役になったとき、いつもより表情を明るくして笑顔で接したり、幼児に優しく対応したり、最後まで話を聞いたりして、自分の課題を意識したかかわりをすることができた。

また、幼児役の生徒たちに、最初におもちゃの遊び方を説明し、おもちゃで上手に遊べた時には「すごい!」と褒めたり、一人の遊びが終わると「次に遊んでみたい人?」と、積極的にかかわろうとしたりする姿も見られた。

さらに、女子のテンションが上がり、「ばか」と言ってみたり、けんかを始めて泣いてしまったりする場面(設定)があった。そのとき、「なんで泣いているの?」「おもちゃでいっしょに遊ぼう。このおもちゃは二人でいっしょに遊べるように作ってあるから」と、幼児役の生徒たちの行動に臨機応変に対応したり、幼児が飽きないように工夫したりしていた。I生はロールプレイングを通して、幼児におもちゃの使い方や遊び方をわかりやすく伝えることの大切さを理解することができた。

【幼児役の生徒から I 生へのメッセージ】

- ・おもちゃが2つあって、2人でできてよかった。
- ・優しく対応していた。楽しかった。元気だった。
- 対応がよかった。けんかしても優しく声をかけていたのでよかった。
- ・ちゃんとおもちゃの説明をしていたし、なんで泣いているのか聞いていてよかった。

【I生の振り返り】

- (1) 課題に対してどうだったか
 - ・優しく接することはできたけど、どうやってけんかを止めればいいのかをすぐに思いつくことがあまりできなかった。
- (2) ロールプレイングを振り返って
 - ・自分たちは遊び方をあたりまえに知っていたけど、幼児からしたら初めて使うもので、遊び方がわからないということがあったから、最初から遊び方をわかりやすく伝えられるとよいと思った。
- (3) 幼児とのよりよいかかわり方について
 - ・幼児からしたら初めてのことばかりで知らないことも多いから、目を見て、ゆっくり話してあげるということが大切。幼児の考えや思っていることを察してあげて、解決策を事前に考えておくことも必要だった。

(3) 成果と課題

今まで、幼児とのかかわり方は、保育園訪問で幼児と触れ合うことで学ぶものだと考えていた。

しかし、このように中学生役、幼児役になって生徒同士でかかわる学習をおこなうことで、幼児の気持ちになって考えることができるよさもあることがわかった。「幼児とのよりよいかかわり方」を考える学習では、相手の立場に立って、様々な場面で自分は何ができるか、どのような声がけができるかを深く考えることが必要であると感じた。

6 生活での実践につながっていく家庭学習

授業学級: 竜丘小学校 5年 小倉 悠

(1) 家庭学習での実践 5年「ゆでる調理」(ゆで卵の作り方)

コロナ禍により、学校での調理実習が行えなかったことから、授業内で調理の手順やポイントを確認し、家庭で調理の実践を行った。家庭学習は、家族の好みのゆで卵を作ってふるまい、家族からのコメントをもらってくるという内容であった。

(2) 児童の宿題から

目標の硬さが達成できなかったY児

【家族の好み】 黄身がトロッとするぐらい 【ゆで時間の計画】 ゆで時間10分

【振り返り】ゆで時間は10分じゃなくて8分くらいがちょうどいい。

【家族から】黄身がもう少しとろっとしている方が好きですが、美味しくいただきました。また作ってください。

【考察】Y児は目標の硬さにできなかったことに関して、うまくいかなかった原因を考え、次に成功するためにはどうしたらよいかということを振り返ることができていた。実際に実践しなければ分からない、ゆで時間とゆで卵の硬さの関係も学習できていた。家族にふるまい「家族好みの硬さにする」という必要感が出てくることも、子ども達の学習への意欲を高めることにつながっていた。

授業で学習した知識から、家族好みのゆで卵を作ることができたR児

【家族の好み】 半熟でとろとろになりすぎず、硬くなりすぎず。

【ゆで時間の計画】 とろとろは3分、固まり始めている5分の間で4分

【振り返り】 たまごはゆでる時間によって食感や見た目がいろいろあって、僕が好きな時間などが分かってよかった。

【家族から】 黄身の硬さが1番好みの味でした。一生懸命作ってくれたことがうれしく、味もとてもよかったです。また食べたいです。

【考察】R児は、授業内に学習したことを使ってゆで時間を工夫する作戦を立て、それを実践できた。ゆで時間の調節により、食感や見た目の違いがあることにも気づくことができていた。

(3) 成果と課題

家族へふるまうことにより、卵のゆで具合を客観的に評価してもらうことができる。また、家庭生活の中で実際に生かせる実習となった。今回の学習では、家庭での実習であるため評価をしていないが、ワークシートを工夫することによって、評価を付けることができるのではないかと考える。好みの硬さに仕上げるためのめあてを明確にし、めあてが達成できたかどうかを振り返る項目を作る。そのことにより、「なぜうまくいった(うまくいかなかった)のか」という調理の具体的なポイントを理解できているか評価することができる。また、児童のめあてが明確であれば、家族からの評価も焦点化されてくるのではないかと考える。安全面、火加減について、自己評価や家族からの評価を入れることで、調理全般で注意すべきことについても振り返ることができる。家庭学習では、うまくいったことを評価するのでなく、「なぜできたのか」という児童の振りかえりや反省を評価することができるのではないかと考える。

IV 研究で明らかになったこと

(1) 授業時数の確保が難しい場合の単元展開の工夫

コロナ禍で臨時休業やオンライン授業になることを想定し、臨機応変に対応できるよう単元 展開の見直しをした。通常は授業の中で扱う内容も、工夫すれば家庭学習として課題を出した り、オンライン授業で学習したりすることができそうである。単元展開は学校での対面授業で 優先的に扱いたい内容、臨時休業の場合は学習する順序を後回しにしても差し支えない内容、 家庭でも実践できる内容の3つに分類し、授業を柔軟に進められるような展開例を提案するこ とができた。

(2) 3密を避けることが難しい学習内容への対応

①オンライン授業

オンライン授業ではその場に授業者がいないため、生徒の反応を感じ取ってやり取りしながら進めていくことが難しい。そのため、授業のねらいや発問が明確になっていないと、生徒が戸惑いやすいことが分かった。また、生徒は、発言や質問をどのようにすれば良いか困っている姿も見られた。ねらい等を明確にすることは対面授業においても同じであり、授業づくりの基本は変わらないとも言えるが、オンラインならではの確認事項もあることが分かった。

②安心、安全な実習

コロナ禍では、これまでのように調理実習や幼児との触れ合いをするのが難しい。そこで、 調理実習の実施マニュアル例を作成し、材料を一人ずつに分け自分で調理する方法を考えた。 その際、ペアをつくりそれぞれアドバイスし合うようにしたことで、自分のねがいをより明確 にして臨む姿が見られた。また、幼児との触れ合いでは具体的な場面を設定したロールプレイ ングを授業に取り入れた。中学生役や幼児役をすることで、相手の立場に立って幼児とのかか わり方を考える姿が見られた。

(3) 生活での実践につながる家庭学習のあり方

コロナ禍で学校では行うことが難しい調理実習を補うため、家庭学習として家族の好みを意識したゆで卵作りを課題として出した。家族に好みの硬さを聞き、どのようにゆでるのかを明確にすることで、その後も家庭で実際に生かせる実習にした。また、家族から感謝のコメントをもらい、家庭で調理する意欲が高まり、生活での実践につながる家庭学習にもなった。ワークシートの振り返り方法を工夫すれば、具体的な調理のポイントを理解できているかどうかを、評価することも可能だと分かった。

V 本年度の研究の結果から次年度さらに研究すべき課題は何か

- ・「学び続ける個の育成」に向けて、生活や社会とつながり子どもの問いが連続する題材デザインのあり方や題材の選定をさらに研究していく。
- ・ねらいにせまり学びの深まりにつながっていくために、ペアやグループなど発表場面にお ける目的や願いの共有の在り方、話し合いの視点、発表内容などを吟味していくこと。
- ・「学び続ける個の育成」につながっていくために、新たな課題がもてるような教師の言葉がけや問いかけはどうあったらよいか。
- ・技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活に生きて働く力を育成するための評価はどうあったらよいか。

これは、昨年度から引き継いだ本委員会の課題である。本年度はコロナ禍での学習に焦点を当てて研究してきたが、コロナ禍だからこそ「学び続ける個の育成」が大切だと感じた。今まで通りとはいかず、柔軟な発想で対応しなければならなかった本年度の取組を大切にして、これからも学びが継続していく授業を考えていきたい。